【機能別委員会】

○委員の決定（追加2件）

(選考委員会)

氏名	所属・職名	備考
三成 美保	奈良女子大学副学長・教授（研究院生活環境科学系）	第一部会員

(科学者委員会)

氏名	所属・職名	備考
藤原 聖子	東京大学大学院人文社会系研究科准教授	第一部会員

【課題別委員会】

○委員の決定（新規1件）

(放射性核種による汚染に係る環境浄化の基礎科学に関する委員会)

氏名	所属・職名	備考	推薦
南條 正巳	東北大学大学院農学研究科教授	第二部会員	第二部
大西 隆	豊橋技術科学大学学長、東京大学名誉教授	第三部会員	第三部
花木 啓祐	東京大学大学院工学系研究科教授	第三部会員	第三部
家 泰弘	日本学術振興会理事	連携会員	第三部
今田 高俊	東京工業大学名誉教授、統計数理研究所客員教授	連携会員	第一部
甲斐 倫明	大分県立看護科学大学理事・教授	連携会員	副会長
巽 和行	名古屋大学名誉教授、名古屋大学物質科学 国際研究センター特任教授	連携会員	第三部

○原子力利用の将来像についての検討委員会運営要綱（平成26年10月3日日本学術会議第203回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後				改正前			
(略)				(略)			
(組織)				(組織)			
第3 委員会は、会長、副会長、各部の部長及び20名以内の会員又は連携会員をもって組織する。				第3 委員会は、会長、副会長、各部の部長及び会員又は連携会員若干名をもって組織する。			
(分科会)				(分科会)			
第4 委員会に、次の表のとおり分科会を置く。				第4 委員会に、次の表のとおり分科会を置く。			
分科会等	調査審議事項	構成	設置期限	分科会等	調査審議事項	構成	設置期限
原子力発電の将来検討分科会	原子力発電所の安全管理の評価、原子力発電所の安全基準とその実現可能性、原子力発電所の社会的費用便益等の原子力発電の安全性を踏まえた将来の在り方に関すること	<u>25名以内の会員又は連携会員</u>	平成29年9月30日	原子力発電の将来検討分科会	原子力発電所の安全管理の評価、原子力発電所の安全基準とその実現可能性、原子力発電所の社会的費用便益等の原子力発電の安全性を踏まえた将来の在り方に関すること	<u>会員又は連携会員若干名</u>	平成29年9月30日
(略)				(略)			

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

課題別委員会の設置について

委員会名：原子力利用の将来像についての検討委員会

1	委員の構成	会長、副会長、各部の部長及び <u>20名以内</u> の会員又は連携会員
2	設置目的	<p>平成23年3月、東京電力福島第一原子力発電所の事故が発生し、福島県民をはじめ多くの国民は我が国の原子力政策のあり方に疑問を持つようになった。日本学術会議は、原子力利用の3原則として民主・自主・公開を昭和29年に提起するなど、原子力に関連する多くの意思の表出を行い原子力の平和利用推進に深く関わってきた。しかし、近年は原子力利用に関する意思の表出は少ない。</p> <p>このような状況の下、日本学術会議は、第22期に原子力利用の将来像についての検討委員会を設置して以下の検討を行い、このうちBについては分科会より提言を発出したところである。Aを中心に更に議論を進めるため、今期も本委員会を設置し、原子力平和利用の安全性を中心とした検討を行い、日本学術会議としての歴史を踏まえた、原子力発電、そして原子力の平和利用に対する現在の考え方を総括するとともに、これらの課題に対する学術的観点からの検討結果を国民ならびに世界に対して示す。</p> <p>A. 原子力発電の安全性の検討 A-1. 事故は起こりうるという前提に立った原子力発電所の安全管理（体制並びに基準）の評価 A-2. 新設あるいは定期点検原発再稼動に関わる安全基準とその実現可能性 A-3 重大事故なしという「神話」に立たない原子力発電所の社会的費用便益 A-4 他国における原子力安全対策及び原子力発電に関わる政府の方針 B. 原子力発電以外の原子力の平和利用の展望と安全性及び国民世論との関係の検討</p>
3	審議事項	原子力発電を含む原子力の平和利用に関する、安全性を中心とした学術的観点からの検討、原子力利用の将来像に対する考え方及び国民世論との関係の総括
4	設置期間	<u>時限設置</u> 平成26年10月3日～平成29年9月30日
5	備考	

※委員構成の変更

原子力利用の将来像についての検討委員会分科会の設置について

分科会名：原子力発電の将来検討分科会

1	所属委員会名	原子力利用の将来像についての検討委員会
2	委員の構成	25名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>日本学術会議としての歴史を踏まえた、原子力発電、そして原子力の平和利用に対する現在の考え方を総括するとともに、これらの課題に対する学術的観点からの検討結果を国民ならびに世界に対して示すために2012年9月に設置した「原子力利用の将来像についての検討委員会」は、その審議範囲が原子力発電の安全性、放射線の利用に係る課題、原子力学に関する人材育成、原子力学の研究の方向性等、極めて広範であり、2012年12月19日に開催された同委員会(第一回)において、調査検討すべきテーマ毎に分科会を設け、集中的に審議を進めることとなった。</p> <p>本分科会は、このうち、原子力発電所の安全管理の評価、原子力発電所の安全基準とその実現可能性、原子力発電所の社会的費用便益等の原子力発電の安全性を踏まえた将来の在り方に関することを調査審議するために設置されたものであるが、第23期においても前期に引き続き調査審議を行うため設置するものである。</p>
4	審議事項	<p>原子力発電の安全性を踏まえた将来の在り方の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事故は起こりうるという前提に立った原子力発電所の安全管理（体制並びに基準）の評価 ○ 新設あるいは定期点検原発稼働に関わる安全基準とその実現可能性 ○ 重大事故なしという「神話」に立たない原子力発電所の社会的費用便 ○ 他国における原子力安全対策及び原子力発電に関わる政府の方針
5	設置期間	時限設置 平成26年10月23日～平成29年9月30日
6	備考	

※委員構成の変更

○委員の決定（追加1件）

（原子力利用の将来像についての検討委員会 原子力発電の将来検討分科会）

氏名	所属・職名	備考
橘川 武郎	一橋大学大学院商学研究科教授	連携会員
吉岡 斉	九州大学大学院比較社会文化研究院教授	連携会員

平成28年度代表派遣会議追加について

平成28年度代表派遣について、派遣会議の追加並びに派遣者を決定する。

番号	会議名称	会期	開催地（国）	派遣者（職名）	備考
1	国際社会科学評議会理事会、総会 および国際科学会議・国際社会科学評議会合同総会	平成28年10月23日～10月25日 (3日間)	オスロ (ノルウェー)	齋藤 安彦 (日本大学総合科学研究所教授) 特任連携会員	・加入団体 ・第1部国際協力分科会より申請 ・派遣者は、理事として出席
2	国際地理学連合（IGU）役員会	平成28年11月15日～11月17日 (3日間)	パリ (フランス)	氷見山 幸夫 (北海道教育大学名誉教授) 第3部会員	・加入団体 ・国際地理学連合（IGU）分科会より申請 ・派遣者は、IGU会長として出席
3	国際土壌科学連合中間会議	平成28年11月20日～11月25日 (6日間)	リオデジャネイロ (ブラジル)	波多野 隆介 (北海道大学大学院農学研究院教授) 特任連携会員	・加入団体 ・国際土壌科学連合（IUSS）分科会より申請 ・派遣者は、IUSS役員として出席
4	世界工学団体連盟(WFE0) 総会	平成28年12月5日～12月9日 (5日間)	リマ (ペルー)	塚原 健一 (九州大学大学院工学研究院教授) 連携会員	・加入団体 ・世界工学団体連盟（WFE0）分科会より申請 ・派遣者は、委員および会議の座長として出席
5	国際地質科学連合理事会および事務局会議	平成29年2月14日～2月17日 (4日間)	パリ (フランス)	北里 洋 (国立大学法人東京海洋大学特任教授) 連携会員	・加入団体 ・地球惑星科学委員会より申請 ・派遣者は、理事として出張
6	世界国際関係学会	平成29年2月21日～2月25日 (5日間)	ボルチモア (アメリカ)	羽場 久美子 (青山学院大学教授) 第1部会員	・未加入団体 ・政治学委員会より申請 ・派遣者は、役員及び会議の座長として出席
7	哲学系諸学会国際連合運営委員会 及び付帯コンフェランス	平成29年3月9日～3月14日 (6日)	ブエノスアイレス (アルゼンチン)	佐々木 健一 (東京大学名誉教授) 連携会員	・未加入団体 ・哲学委員会より申請 ・派遣者は、指名招請者として出張

公開シンポジウム

「第2回防災学術連携シンポジウム「激甚化する台風・豪雨災害とその対策」」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議防災減災・災害復興に関する学術連携委員会
2. 共 催： 防災学術連携体
3. 後 援： なし
4. 日 時：平成28年12月1日（木）10：00～18：00
5. 場 所： 日本学術会議講堂
6. 委員会の開催： 開催予定なし

7. 開催趣旨：

近年、地球温暖化による気候変動の影響などで、日本の台風・豪雨災害が激化している。今年
の台風第10号等による記録的な大雨は、北海道・岩手県に甚大な被害をもたらした。

日本学術会議の防災減災・災害復興に関する学術連携委員会は、防災学術連携体の54の構成
学会とともに自然災害の軽減に向けて学術連携を進めている。このたびは「激甚化する台風・豪
雨災害とその対策」をテーマにして、「国土利用と台風・豪雨災害」、「台風・豪雨災害への備え」
および「台風・豪雨災害時の避難・救助・復興」の3セッションの構成で、公開シンポジウムを
開催する。

防災に関わる各学会の専門家が集まり、研究成果や取り組みを発表すると共に、今後、わが国
はどう備えていけば良いのかを議論する。

8. 次 第：

10:00 挨拶・趣旨説明

司会： 依田 照彦*（日本学術会議連携会員、早稲田大学理工学術院創造理工学部教授）

挨拶： 大西 隆*（日本学術会議第三部会員・会長、豊橋技術科学大学学長、東京大学名
誉教授）

趣旨説明： 和田 章*（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授）

来賓挨拶： 政府関係者（調整中）

10:15 セッション① 「国土利用と台風・豪雨災害」

発表学会 : 各学会代表 1 名による発表

日本気象学会、日本海洋学会、日本地球惑星科学連合、日本リモートセンシング学会、横断型基幹科学技術研究団体連合、日本地理学会、地理情報システム学会、日本地図学会、日本都市計画学会、ダム工学会、日本自然災害学会

12:35-13:20 休憩

13:20 セッション② 「台風・豪雨災害への備え」

発表学会 : 各学会代表 1 名による発表

日本風工学会、土木学会、日本応用地質学会、日本地すべり学会、地盤工学会、日本コンクリート工学会、日本水環境学会、農業農村工学会、日本地域経済学会、日本造園学会、日本森林学会

15:40-16:00 休憩

16:00 セッション③ 「台風・豪雨災害時の避難・救助・復興」

発表学会 : 各学会代表 1 名による発表

こども環境学会、日本災害情報学会、廃棄物資源循環学会、日本集団災害医学会、日本災害看護学会、日本看護系学会協議会、日本自治体危機管理学会、日本緑化工学会

17:50 まとめの言葉、閉会挨拶

まとめの言葉：米田 雅子*（日本学術会議第三部会員、慶應義塾大学先導研究センター特任教授）

閉会挨拶 : 廣瀬 典昭（日本工営株式会社代表取締役会長）

(*印の登壇者は、主催委員会委員)